2002年10月05日

JIPAT News Letter vol. 026-01

The Japan Interior Planners Association Tokyo

東京インテリアプランナー協会　東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター3F 〒141-0022
TEL.03-3446-8860 FAX.03-3446-1417 URL http://www.jipat.gr.jp e-mail office@jipat.gr.jp

TOPICS

昨年は、17,000名の方々が来場されたIPEC21を、今年も引き続き開催いたします。テーマは「健康な環境・Ⅱ」、インテリアの総合展としての展示会とセミナーです。

いままでの展示会とは一味違います。何が展示されるか、興味深々のコロニーハウスの展示もあります。是非お出かけ下さい。

それでは皆様、会場でお会いしましょう。

（中川誠一）

□2002年10月9日㈬～11日㈮
東京ビッグサイトにて
web site で来場登録を！
入場無料で入場受付がスムーズ

事前登録
http://www.ipec21.jp/reg/index.html

□国際展示会
各企業・団体がインテリアに関わる最新の技術、製品、企業理念などを提案・展示、「健康な環境・Ⅱ」というメインテーマをもとに4つのサブテーマゾーンとオリジナルテーマを加えた5つのゾーンから構成

詳細
http://www.ipec21.jp/

□コンファレンス・プログラム
○開催記念基調講演
10月9日㈬　14：30～16：30
＜魅力的な生活環境の創造＞
建築・インテリアに求められているもの
坂村　健（東京大学教授）他
（A/E/C SYSTEMS JAPANと共催）

○インテリアセミナー
10月9日㈬～11日㈮
- セミナーⅠ：プロジェクトを語る
- セミナーⅡ：デザイナーと語る
- セミナーⅢ：健康と環境を語る

○国際フォーラム
10月10日㈭・11日㈮
- コラボレーションビジネス
- インテリアビジネス・アジアからの発信

○テーマセッション
10月10日㈭・11日㈮
出展企業・団体が各テーマについて語る

各セミナー
http://www.ipec21.jp/conf/index.html

□ INTERIOR WAVE・02
様々な領域で活動するインテリアのプロがパネル展示・ユニット展示で報告と提案を

昨年のINTERIOR WAVEの模様
http://www.ipec21.jp/wave/index.html

□特別展示企画
KOLONIHAVEN
—The International Challenge
コロニーハウス～世界の建築家17人がデザインする極小居住スペース～
デンマークをはじめ北欧に伝統的にみられる、庭や菜園と付属する小さな居住スペース「コロニーハウス」。本展ではその模型・オリジナルドローイングとともに、日本人インテリアプランナー、デザイナー、建築家が提案する内部空間のデザインも合わせて展示します。
（A/E/C SYSTEMS JAPANと共催）

詳細
http://www.arcspace.com/khave/index.html

連載　色彩とインテリア ①

ディックカラー＆デザイン㈱　森田良子

インテリアの色は何色？　と聞かれたら、まず“茶色”と答えるでしょう。そのくらい木、または木目調のものに囲まれて私たちは生活しています。

この“茶色”は色彩学的にいうとオレンジ色（YR）という色相になります。私たちの肌も色相はオレンジ色（YR）なので、実は木の色も肌色も同じ色のグループなのです。インテリアに多く使われるのはこのためで、人間が最も落ち着きを感じる色だからでしょう。

そして、インテリアでのカラーコーディネートというとファブリックなどの“カラフルな色づかい”のことをまず想像しますが、フローリングの木目とドアの木目や壁材との微妙な色合わせの中でこそ色彩感覚が重要になります。なぜなら、フローリング・家具・ドアなどはそれぞれ別のメーカーが作っているので木目の色は少しずつ違い、この微妙な違いがコーディネートを難しくしているのです。

“近いのにちょっと違う色”は組み合わせるとかえって違いを強調してしまうのです。

一般的に赤やオレンジ・黄色は暖色系、青や紫は寒色系といわれていますが、“冷たい赤”もあれば“暖かい青”もありますよね。このように色にはかなり幅があるのです＜図1参照＞。

“冷たい赤”は色相環のなかで紫に近い赤、つまり青みがかった赤。“暖かい赤”は色相環のなかで黄色に近い赤、つまり黄みがかった赤。この2色は同じ赤系統でもベースカラーが青と黄で違うのです。カラーコーディネートでは、このベースカラーを揃えることが調和を生む法則です。

木目の色はライト・ミディアム・ダークという明度差で分類されていますが、色相をよく見てみると青みがかった色から黄みがかった色まで幅広くあることがわかります＜図2参照＞。

インテリアのカラーコーディネートのコツは、このような素材ごとの色みの幅をとらえていくことです。すると同素材で“近いのにちょっと違う色”を組み合わせるより、思い切って素材を変えた方がバランス良く調和することも発見できるでしょう。

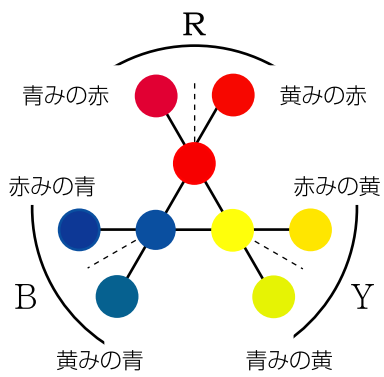


図1　色みの幅（カラー）

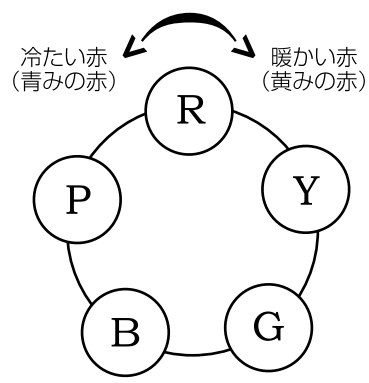
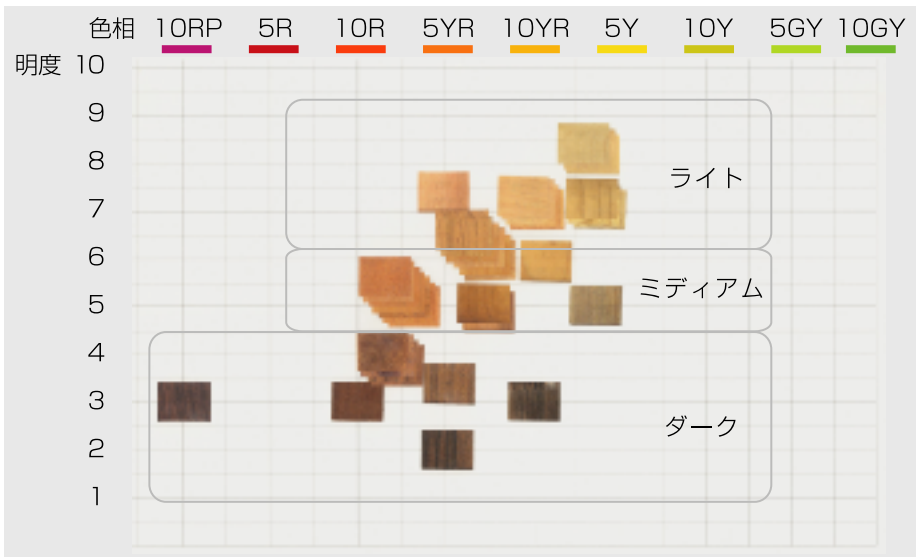


図1　色みの幅（モノクロ）

図2　素材の色【木目の色相・明度】



EVENT REPORT
会員交流の旅 IN 会津

会員交流委員会が5年の歳月を掛けて企画したバス旅行［旅に行こうよ IN 会津］は、7月6日の早朝、梅雨の合間の東京・鍛冶橋駐車場に、女性5名、男性15名のメンバーが集合して始まった。

バスは東北道を一路北へと進むなか、早一回目の宴会が始まったが、静かにビールを飲んでいる人達が多く、早朝ということもあり寝ている人達もいた。バスは郡山・猪苗代高原を快調に飛ばし、予定通り昼食場所「清作茶屋」に到着。朝食を食べていなかったためか、そば御膳が非常に美味しく、ここで2回目の宴会。ここでも皆さん静かに仲間とビールを飲み、会話を楽しんでいた。が、嵐の前の静けさの感じがした。

昼食後、今回の目玉の一つである『明治の香りを今に伝える・天鏡閣』にバスは着いた。明治40年有栖川宮威仁親王殿下が東北地方御旅行中、猪苗代湖畔を巡遊され、その風光の美しさを賞せられて、この地に別邸を建設されたとのこと。

それは小高い丘の上に建てられた気品のあるルネッサンス風洋風建築であった。正面の感じは少々小さいが、2階建で部屋も30前後あり、特に各部屋のマントルピースと鏡に特徴があり、マントルピース両側のタイル柄は花をモチーフにしたものが多く、天井の飾りシャンデリア及び家具は明治の気品ある皇族別邸の豪華さを物語っていた。

また、鬱蒼とした樹木に囲まれた、旧高松宮翁島別邸は猪苗代湖畔に建ち、天鏡閣から散歩を楽しみながら見学できる。東屋から見る湖は非常に美しく、心が癒される思いであった。その後、鶴ケ城の石垣を見て今回のメインイベント『江戸の面影残る宿場町・南会津大内宿』に…。

宿場町入口駐車場から歩きながら町の風景を見て、何か異空間の感じがした。道路は砂利道で馬車が2台通れる広さがあり、両側にきれいな湧水の用水路が流れ、茅葺き屋根の民家が建ち並び、江戸時代にタイムスリップしたような第一印象であった。

イラスト：日建スペースデザイン㈱　浦　一也

80段の階段を登り裏山の中腹から大内宿を見下ろす景色は私の脳裏に、時代劇の木枯らし紋次郎が口に楊子をくわえ大内宿を見下ろしながら峠を下ってくる世界を感じた。

民宿、みやげ物屋が建ち並ぶなか、用水路で冷やしたビールを飲むグループ、それは我々の仲間の宴会であった。冷えたキュウリに自家製の少々辛めの味噌をつけて、トマトにはちみつをかけて、それを肴に飲むビールの味は格別であった。

湯野上温泉で露天風呂を楽しんだあとは、福島IP協会より3名、直行者2名を加え、宴会の始まりである。

この重要伝統的建造物群保存地区を30年前に1年の歳月を掛けて調査し、3mにもおよぶ大内宿間取図を作り上げた苦労話を聞きながら、静かに宴会は始まった。

10種類以上の料理を満喫しながら、宴たけなわな頃、知らざあ言って聞かせやしょう…と、芸達者な方が大内宿歌舞伎の声色の一幕を。宿屋中が歓喜の声に変わり…部屋の明かりが消され…あ・さて…は闇に消えた。

翌7日、今日は晴天。天に祈りが通じたのか暑そうだが、朝もやの大内宿は清々しくて気持ちがよかった。8時30分に出発、少々昨夜の出来事が頭に残る。

バスは昨夜の疲れを残したまま、新宮熊野神社「長床」へと着いた。周りの風景はあまりパッとしないものの、拝殿としては東北地方では一番古く平安末期の建造物で、454φの円柱が44本、3mの等間隔に5列に並び、四方吹抜けのため、非常に荘厳な感じを与えていた。

続いて、蔵のまち喜多方に入り、2000を越える蔵が点在する中で、重厚な風格が漂う「甲斐本家蔵座敷」を見学し、大正ロマン漂う喫茶室でコーヒーを飲み、蔵印の本場喜多方ラーメンを購入し、まちを散歩しながら昼食の地、大和川酒造「北方風土館」で酒造りの説明を聞き、10種類以上もある酒の利酒をした。なかでも荻窪の居酒屋のママさんは、全ての利酒をし、非常に満足しながら、昼食の「良志久庵」で“日本そばには日本酒が合う”と言いながら、宴会に…。観光化した三津谷集落、うるし美術館を見て、あっさりした醤油味の喜多方ラーメンも食べて、帰途のバスの中へ。

残り少ない時間で最後の宴会が始まり、一升瓶とビールが配られ、最後の盛り上がりを感じながらバスは時間通り東京に着いた。

今回の旅行で日本の風土に融けこんだ、数多くの歴史的建物を見て、7度の宴会で日本酒8本と数えきれないほどのビールを飲み、脳も腹も満足し、楽しい時を過ごせた、IN 会津の旅であった。

次も｛旅に行こうよ…｝会員交流委員会企画中…。

報告：高島屋スペースクリエイツ㈱　河原　孝

新商品紹介

ウィルクハーン・ジャパン㈱

2002年、Wilkhahnが発表する“Sito”（ジート）キャンティレバーチェア。その姿は、機能的な明確さとエルゴノミック的な快適さをそなえ、キャンティレバーチェアではかつてない軽快なフォルムが特徴的です。デザインコンセプトは「橋の構造」。シートにかかる力を、スチールのチューブフレームと平らなブレースで支え、橋脚をイメージして、透明感と軽さを生み出しています。フレキシブルなフレーム構造と、シートの後部に角度をつけることによって、骨盤を支え圧力を緩和します。バックレストは、背骨のランバー部分をしっかりと支え、エルゴノミック的にも正しいシッティングをもたらします。

問合せ先：TEL. 03-5573-2411

平成14年度　新入会員

正会員　稲葉保宏／飛鳥田宏子

準会員　芝　桃子／浜　優子／岡本　博　山田淳二

賛助会員　E.J.クラウス＆アソシエイツ日本支社／川島企画販売㈱／㈱カシワリビング／㈱テシード／㈱セブンホーム／日本アメリカン・スタンダード・トレイン㈱

編集後記

今年度からニューズレター編集を担当することになり、右も左もわからないまま前任者や委員長に助けられながらやっと本号を出すことができました。

イベント報告と連載記事「色彩とインテリア」を軸に各委員会報告や新商品紹介、新入会員の紹介など様々な情報をコンパクトにお届けしたいと思っておりますので、掲載を希望する情報が有りましたら、どんどん記事をお寄せください。記事の送付先は news@jipat.gr.jp です。

（羽沢）

【お知らせ】平成14年度第2号（NL vol.26）となる本号から、情報をよりタイムリーにお届けしようとFネットで配信することになりました。また、こちらの紙面では表現しにくいカットや図等を詳細にご覧頂ける様、ホームページ（http://www.jipat.gr.jp）にも掲載してありますので、是非そちらもご覧下さい。

発行者：東京インテリアプランナー協会 会長　中川誠一　　編集者：情報委員会